小板井屋敷遺跡9

小郡市文化財調査報告書第３４８集

２０２２

小郡市教育委員会

序　　文

この報告書は、個人住宅建設に伴い、小郡市教育委員会が令和２年度に実施した小板井屋敷遺跡９の発掘調査の記録です。今回の発掘調査の成果としては、本報告書に記したように弥生時代から古代にかけての住居跡やピット群といった、これまでの小板井屋敷遺跡の調査で確認されている集落跡の一部が発見されました。

こうした埋蔵文化財は、地域の歴史を知る上で欠かすことのできない文化遺産です。本書に収録されたこれらの資料が、教育及び学術研究において役立ち、また、文化財に対する認識及び理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたってご理解とご協力をいただいた地元小板井地区の皆様をはじめ、多くの方々のご援助をいただいたことに厚くお礼申し上げ、序文といたします。

令和４年３月31日

小郡市教育委員会
教育長　秋永　晃生

例　言

１．本書は、小郡市小板井地内における個人住宅建設に伴って、令和２年度に小郡市教育委員会が実施した小板井屋敷遺跡９の埋蔵文化財発掘調査の記録である。
２．発掘調査に伴う整理作業は令和３年度に実施した。
３．遺構写真撮影は調査担当者が行い、遺構実測は久住愛子、宮崎美穂子の補助を得て山田桃子が行った。遺物写真撮影は（有）システム・レコに委託した。
４．遺物復元は佐々木智子、が行い、遺物実測は山田が行った。製図は久住が行った。
５．遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に則している。
６．本書で用いた標高は、東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。
７．遺構・遺物実測図、遺物、写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
８．本書に使用している遺構略号は下記のとおりである。
　SC：住居跡、SB：掘立柱建物、SD：溝、SP：ピット
９．本書の執筆・編集は山田が行った。

〈目　　次〉

第１章　調査の経過と組織……1
　１．調査の経緯
　２．調査の経過
　３．調査の体制
第２章　位置と環境……1
第３章　調査の内容……3
第４章　まとめ……1

〈挿　図　目　次〉

第１図　小板井屋敷遺跡９調査地位置図（S = 1／2500）……3
第２図　小板井屋敷遺跡９遺構配置図（S= 1／50）……4
第３図　SC 1 実測図（S= 1／40）……5
第４図　SB 1 出土遺物実測図（S= 1／2）……6
第５図　SB 1 実測図（平面：S= 1／50）……7
第６図　SB 1 ピット１～８土層図（S= 1／40）……8

〈図　版　目　次〉

図版１　①調査区全景（南側から）
　　②調査区全景（北側から）
図版２　①SC 1 完掘（南側から）
　　②SC 1 完掘（東側から）
図版３　①SD 1 （東側から）
　　②SD 1 （西側から）
図版４　出土遺物

〈表　目　次〉

小板井屋敷遺跡９出土遺物観察表

第1章　調査の経過と組織

１．調査に至る経緯

小板井屋敷遺跡９の発掘調査は、小郡市小板井547－８における個人住宅建設に先立ち、地権者より令和２年９月23日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号20079）が提出されたことに始まる。市教委では、これを受けて令和２年10月21日に申請地の試掘調査を行った結果、地表下約65㎝の深さで遺構が確認されたため、開発に先立って埋蔵文化財に関する協議を行った。

協議の結果、敷地のうち住宅建設部分の56.31㎡について発掘調査を実施することとなった。

２．調査の経過

発掘調査は令和２年11月４日から同年11月24日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

11月４日　重機による表土剥ぎ開始。
11月５日　発掘作業員を投入し、遺構掘削開始。
11月24日　調査区全景写真撮影。遺構実測終了。
　　重機による埋め戻し開始。発掘道具の搬出。
　　調査完了。

３．調査の体制

小板井屋敷遺跡９の調査の体制は、以下のとおりである。

［令和２年度］
小郡市教育委員会

教育長	秋永 晃生
教育部長	山下 博文
文化財課長	柏原 孝俊
係長	杉本 岳史
技師	杉本 岳史（調査担当）
技師	山田 桃子（調査担当）

［令和３年度］
小郡市教育委員会

教育長	秋永 晃生
教育部長	山下 博文
文化財課長	柏原 孝俊
係長	杉本 岳史
技師	山田桃子（整理担当）

［発掘作業従事者］
木村哲郎、串尾弥代子、早坂幸子、武藤茂（敬称略）

第2章　位置と環境

小郡市は福岡県中部に位置し、市内の中央部には南北に宝満川が流れている。小郡市の北半と三井郡大刀洗町のほぼ全域は、古代における筑後国御原郡にあたる。御原郡は筑前国、肥前国に接しているため、「三国」という地名が残っている。背振山系から派生する三国丘陵と呼ばれる低丘陵地帯である。

小板井屋敷は宝満川に形成された解析谷の河岸段丘上に位置している。平成９年以降より５次にわたって調査が行われ、８次調査まで実施されている。それらの調査により、弥生時代中期後半及び弥生時代後期後半から古墳時代初頭の住居跡や、中近世の井戸状遺構及び区画溝と考えられる大溝が数多く確認されている。また、古墳時代終末から古代にかけての集落が確認されているが、発掘例が少ないため不明な点が多い。

第１次調査では、弥生時代中期後半の住居３軒と、弥生時代後期後半から古墳時代初頭の集落跡が確認されており、竪穴住居跡が12軒検出されている。第２次調査では、古代の集落跡及び中・近世の溝が検出されている。区画溝とされる13世紀代のSD９は南北26～30mの区画が、それに併走する14世紀代のSD10は、南北25～28mの区画が推定されている。第３次調査では、中・近世の溝と土坑が確認されている。５条の溝の時期変遷を見ると、12世紀を主体とする遺物を有する２号溝と３号溝が12世紀にほぼ同時期に機能した後、５号溝が14世紀～15世紀頃に使用され埋没し、17世紀～18世紀前半を主体とする１号溝が利用された後に現代のものである４号溝が造られている。また、１号溝と２号溝は幅約2.0m～2.5m、深さ約70㎝～120㎝と規模が大きいため、各時期の区画溝と考えられる。第４次調査では、弥生時代や中・近世の遺物は見つかっておらず、古墳時代の遺構を主体としている。古墳時代前期・後期前半の土坑と、後期後半の住居跡が確認されており、この住居群は短期間の建て替えが考えられている。出土遺物や主軸方向から、２次調査で検出された住居と同時期のものとされる。第５次調査区は、１次調査地から南に約100mと近い位置にあるものの、１次調査と異なり弥生時代中期前葉～中葉の小児棺１基と祭祀土坑５基が確認されている。朝鮮半島系土器も見つかっており、弥生時代後期終末から古墳時代前期初頭の土器群の中に含まれていたものである。第６・７次調査では、弥生時代から古代にかけての竪穴住居、弥生時代以降から古代以降のものと思われる土坑、近世の溝などが確認されている。６次調査では、弥生時代後期頃及び８世紀後半から末頃に属する竪穴式住居と、16世紀末から18世紀前半のものと考えられる溝が確認されている。また、７次調査では小型仿製鏡が調査区東壁の清掃時に発見されている。この仿製鏡は重圏文系で、半円状の二重同心円が一か所のみでその他は蕨手文が連続して配置されているものである。また、５次調査と同様に朝鮮半島系土器も見つかっており、弥生時代後期後半から古墳時代初頭のものと考えられる。第８次調査区は、５・６・７次調査区に隣接しており、５・６次調査で報告されている溝と同一のものと考えられる近世代の方形区画溝が検出されている。この溝は５次調査地点にて検出されたものが６次調査地点で屈曲して８次調査地点につながっており、北北東方向に35.2m以上延びている。

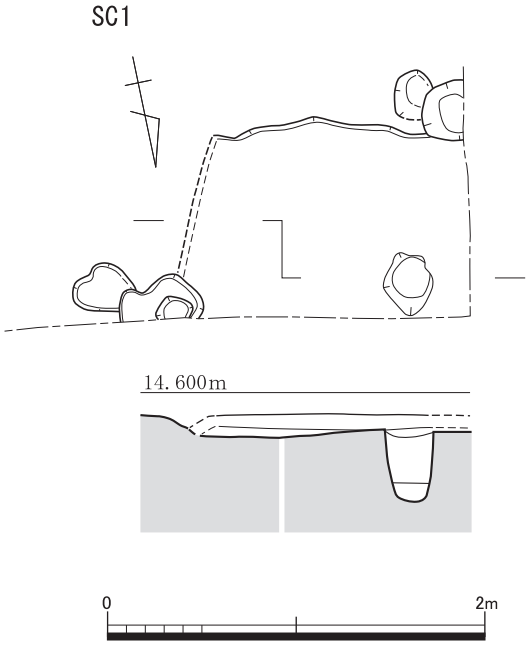
第１図　小板井屋敷遺跡９位置図

第２図　小板井屋敷９遺構配置図（S=1/50）

第3章　調査の内容

竪穴住居（SC 1）

調査区北東隅で確認された、竪穴住居跡である。住居の南西隅部分のみの確認であり、検出されたピットは一つである。そのピットからは土器片が出土したが小片のため、詳細な時期の判断が難しい。確認できた長軸は1.52m、短軸1.08mで、隅は角張っているため方形状を呈す可能性がある。



第3図　SC1実測図(S=1／40)

掘立柱建物（SB 1）

２間×２間の掘立柱建物である。確認されたピットは８基で、北西端のピットが調査区外に存在すると思われる。ピット１から石鏃が、ピット２からは須恵器の坏身片が出土している。他にもピット番号８以外のピットからは土師器の小片が出土している。

出土遺物

１は須恵器の坏身である。ピット２から出土した。復元器高4.1cm、口径10.5cmを測る。調整は内外面ともにヘラケズリ後回転ナデを施す。７世紀初頭～前半のものと見られる。

２はサヌカイト製の尖頭器である。ピット１から出土した。全長4.6cm、最大幅1.95cm、厚さ1.3cmを測る。先端部に使用時による欠損がある。

溝（SD 1）

調査区を東西に走る溝で、幅が約40cm、長さ６m30cm、残存高8.0cmを測る。近世の溝と考えられるが、出土遺物は黒曜石の剥離片のみのため、詳細な時期は不明である。土層は単層で、暗褐色土（Hue 10YR3/3）に褐色粘土ブロック（Hue10YR4/4）が少量混ざる。

その他の出土遺物

SB１以外のピットからは土師器や黒曜石の破片が出土しているが、そのほとんどが小片のため図化には至っていない。以下、図化した土器のみその特徴をあげる。

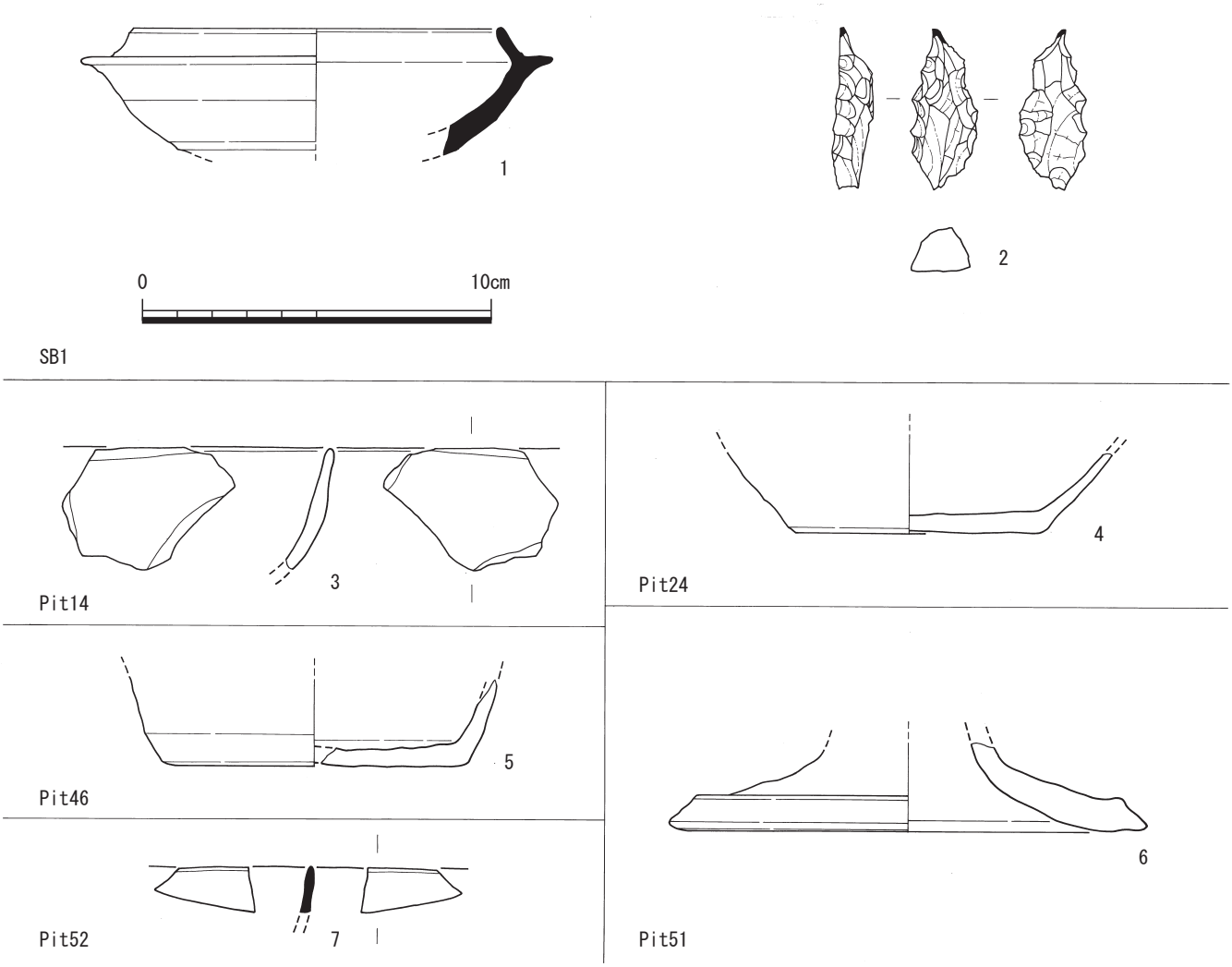
３は土師器の埦である。ピット14より出土した。器高3.5cmを測る。調整は内外面ともにナデを施す。

４は土師器の皿で、灯明皿である。ピット24より出土した。残存高2.3cm、口径11.1cm、底径7.4cmを測る。調整は内面にナデ、外面にはヘラ切り後ナデを施す。

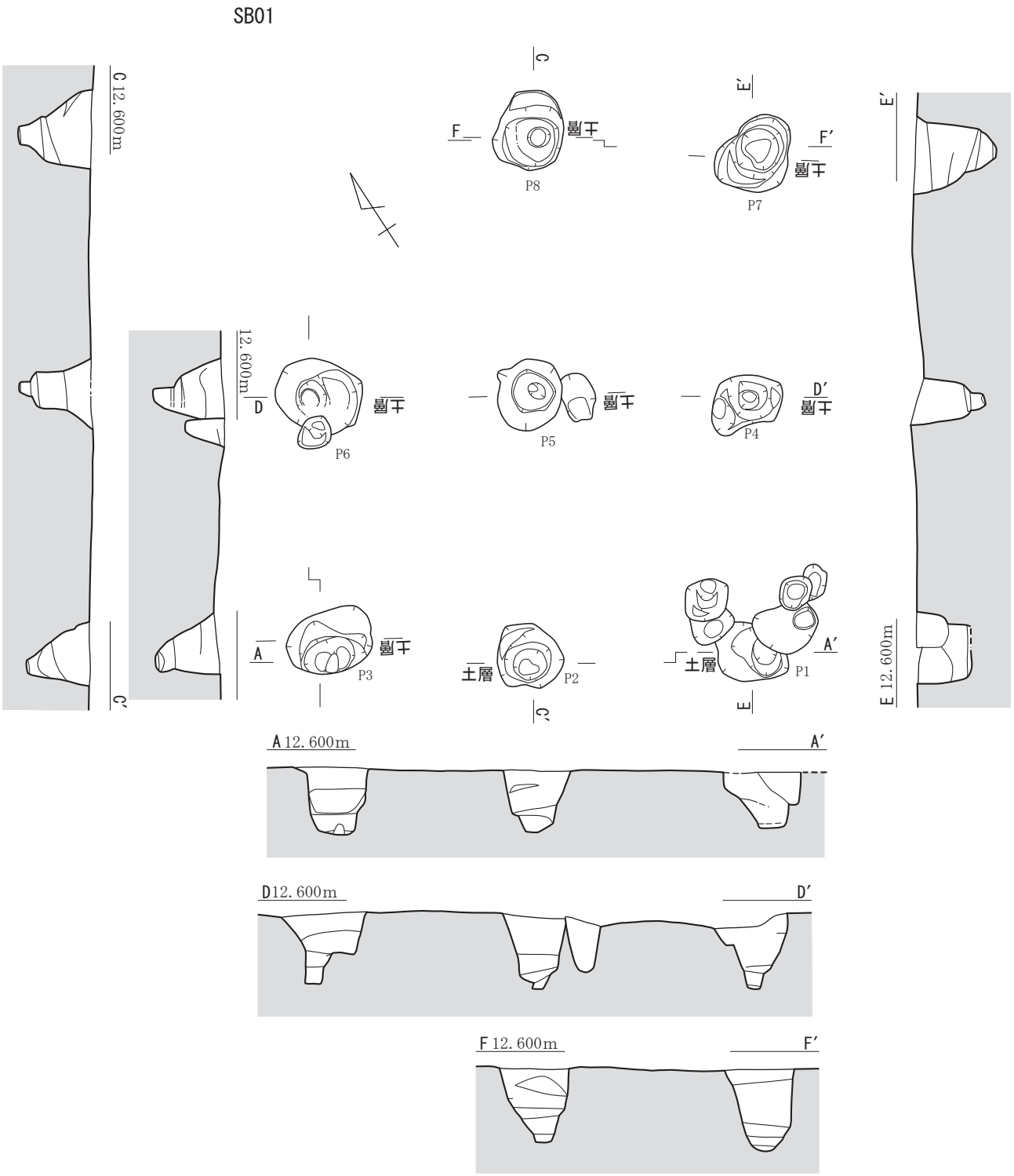
５は土師器の坏である。ピット46より出土した。残存高2.5cm、口径10.3cm、底径8.0cmを測る。調整は内面にナデ、外面にはヘラ切り後ナデを施す。

６は土師器の高坏の脚部である。ピット51より出土した。残存高2.5cm、底部の復元径13.6cmを測る。調整は内外面ともナデを施す。

７は須恵器の坏の口縁である。ピット52より出土した。残存高1.3cmを測る。調整は内外面ともに回転ナデを施す。

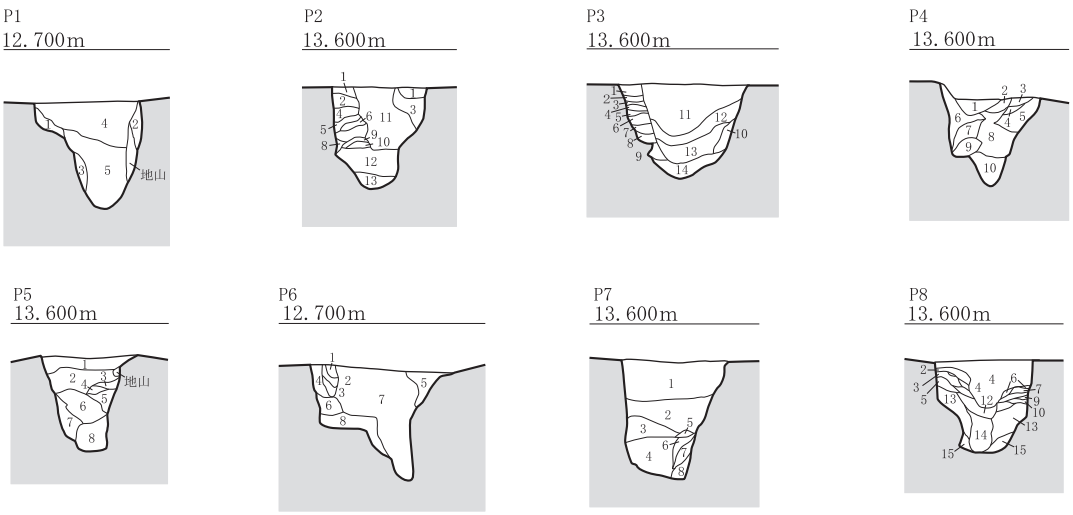


第４図　SB１出土遺物実測図（S=１／２）



第５図　SB１実測図（S= １／50）

SB01



P1
1 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4)
2 第１層と同様
3 黄褐色土（Hue10YR5/6、粘質土）＋黒色土（Hue10YR1.7/1)
4 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、ブロック斑点状)
5 黒色土（Hue10YR2/1、粘質土）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、ブロック少量)

P2
1 黒褐色土（Hue10YR2/2、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、小ブロック)
2 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6)
3 黒色土（Hue10YR２/3、植質シルト）＋暗褐色土（Hue10YR3/3、植質シルト)
4 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト少量）＋黄褐色土(Hue10YR5/6)
5 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、小ブロック)
6 黄褐色土（Hue10YR5/6、植質シルト）＋黒色土(Hue10YR2/1、少量)
7 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4)
8 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト)
9 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4)
10 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、少量)
11 黒色土（Hue10YR1.7/1.75、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、少量混じる)
12 黒色土（Hue10YR1.2/1、植質土）＋黄褐色土(Hue10YR5/6斑点状、小ブロック)
13 黒色土（Hue10YR1.7/1、粘質土)

P3
1 黒褐色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/6、少量)
2 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4、少量)
3 黒色土（Hue10YR２/3、植質シルト）＋にぶい黄褐色土（Hue10YR5/3)
4 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3、少量)
5 黄褐色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)
＋黒色土(Hue10YR2/1、少量)
6 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋オリーブ土(Hue5Y5/4)
7 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue2.5Y5/3、少量)
8 黒色粘質土（Hue10YR1.7/1)
9 黒色土（Hue10YR1.7/1）＋黒褐色粘質土(Hue10YR2/2)
10 黒色粘質土（Hue10YR1.7/1）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、小ブロック)
11 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/6、ブロック)
＋にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)
12 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト)
13 黒色土（Hue10YR1.7/1、粘質土＋褐色土(Hue10YR4/6、ブロック斑点状少量)
14 黒褐色粘質土（Hue10YR2/2）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、小ブロック)

P4
1 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4)
2 褐色土（Hue10YR4/4、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、ブロック)
3 黒色土（Hue10YR3/2、粘質シルト)
4 黒色土（Hue10YR4/4、植質シルト）＋にぶい黄褐色土(Hue10YR5/6)
5 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト)
6 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10Y5/6、ブロック)
7 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10Y5/6、ブロック)
8 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3、植質シルト）＋黒色土（Hue10YR1.7/1、少量)
9 黒褐色土（Hue10YR2/2、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4)
10 黒色粘質土（Hue10YR1.7/1）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、小ブロック)
11 黒色土（Hue10YR1.7/1、粘質土)

P5
1 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、小ブロック混じる)
2 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、小ブロック混じる)
3 黒色土（Hue10YR2/1、粘質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6)
4 黒色土（Hue2.5YR2/1、植質シルト)
5 褐色土（Hue7.5YR4/6、粘質土）＋黒色土（Hue10YR2/3、粘質土)
6 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黒褐色土(Hue10Y3/2、小ブロック混じる)
7 褐色土（Hue7.5YR4/6、粘質土）＋黒褐色土(Hue10Y2/3、粘質土)
8 暗褐色土（Hue7.5YR3/4、粘質土）＋黒色土（Hue7.5YR2/1、粘質土)

P6
1 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4)
2 褐色土（Hue10YR4/4、植質シルト)
3 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4、少量)
4 黒色土（Hue10YR1/2、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4)
5 褐色土（Hue10YR1/2、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4)
6 黒色土（Hue10YR1.7/1、粘質土）＋にぶい黄褐色土(Hue10Y4/3)
7 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト)
8 黒色土（Hue10YR1.7/1、粘質土）＋褐色土(Hue10Y4/6)

P7
1 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、斑点状)
2 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、斑点状）＋褐色土(Hue10YR4/4)
3 黒色土（Hue10YR4/4、植質シルト）＋黒色土(Hue10YR2/1)＋黄褐色土(Hue10YR5/6、斑点状)
4 黒色土（Hue10YR2/1、粘質土）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、斑点状)
5 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6)
6 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、少量)
7 黄褐色土(Hue10YR5/6、粘質土）＋黒色土(Hue10YR2/1、粘質土少量)
8 黒色土（Hue10YR1.7/1、粘質土)

P8
1 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋黄褐色土(HueYR5/6)
2 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3、少量)
3 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト)
4 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト）＋にぶい黄褐色土(Hue10YR5/6、少量)
5 黒色土（Hue10YR1.2/1、植質シルト）＋にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3、少量)
6 褐色土（Hue10YR4/4、植質シルト）＋黒色土（Hue10YR12/1、植質シルト)
7 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10Y4/4、小ブロック)
8 黄褐色土（Hue10YR5/6、粘質土）＋褐色土（Hue10YR4/4、混じる)
9 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4、混じる)
10 黄褐色土（Hue10YR5/6、粘質土）＋褐色土(Hue10YR4/4、混じる)
11 黒色土（Hue10YR1.7/1、植質シルト)
12 黒色土（Hue10YR2/1、植質シルト）＋褐色土(Hue10YR4/4、小ブロック)
13 黒色土（Hue10YR3/2、粘質土）＋黄褐色土(Hue10YR5/6、粘質土、混じる)

第６図　SB１ ピット１～８土層図（S=１／40）

第4章　まとめ

本調査区では、詳細時期不明の竪穴住居、古代の掘建柱建物、近世の溝が確認された。南東に位置する第２次調査では、古代の集落跡と中・近世の溝が確認されており、今回の調査の成果は、これまでの調査で確認されていた遺構群と同様の流れを汲むものである。調査面積が56㎡と小面積ながら、ピットが切り合った状態で50基余りが検出され、１基ではあるが竪穴住居も確認された。一方で、これまでの調査の成果であげられた区画溝といった大型の溝は検出されていない。

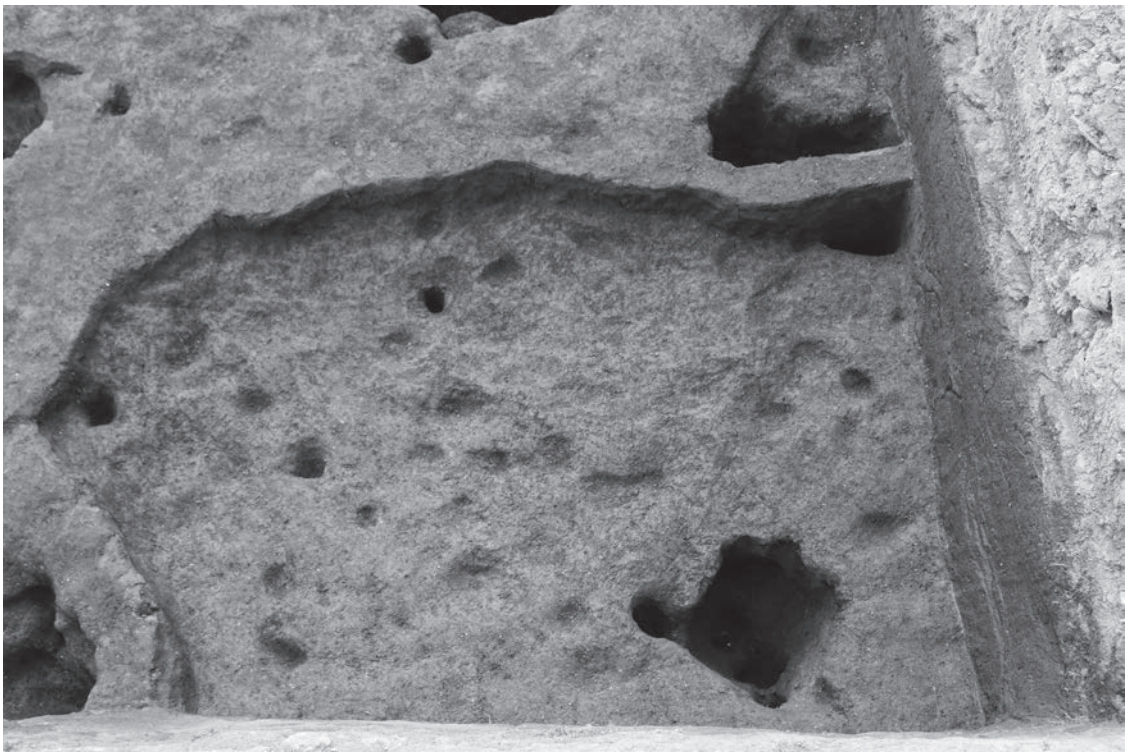
第１表　小板井屋敷遺跡９　遺物観察表

出土遺構	挿図番号	図版番号	器種	法量㎝(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整	備考
SP1(SB1)		4-2	尖頭器	全長4.6、最大幅1.95 厚さ1.3	灰色	－	－		ｻﾇｶｲﾄ製 重さ8.4g 先端部5㎜表面に破損により剥離
SP1(SB2)		4-1	須恵器 坏身	残存高:4.1	内:灰色 外:灰色	精良 1.5㎜以下の砂粒含む	良	内・外面ともﾍﾗｹｽﾞﾘ後回転ﾅﾃﾞ	
SP14		4-3	土師質 埦	残存高:3.5	橙色	精良 1㎜以下の石英含む	良	内・外面ともﾅﾃﾞ	外面にｽｽ付着
SP24		4-4	土師質 皿	残存高:2.3	内:橙色~にぶい赤褐色 外:赤橙色~橙色	精良 1㎜以下の石英含む	良	内面にﾅﾃﾞ、外面にﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	
SP46		4-5	土師質 坏	器高:2.5	浅黄橙色~橙色	精良 1㎜以下の石英含む	良好	内面にﾅﾃﾞ、外面にﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	
SP51		4-6	土師質 高坏	残存高:2.5	橙色	良 2㎜以下の石英含む	良	内・外面ともﾅﾃﾞ	
SP52		4-7	須恵器 坏	残存高:1.3	内:灰黄色 外:黄灰色	1㎜以下の石英含む	やや不良	内・外面とも回転ﾅﾃﾞ	

図版 1

①調査区全景(南から)

②調査区全景(北から)



①SC 1 (北から)

②SC 1 (東から)

図版３

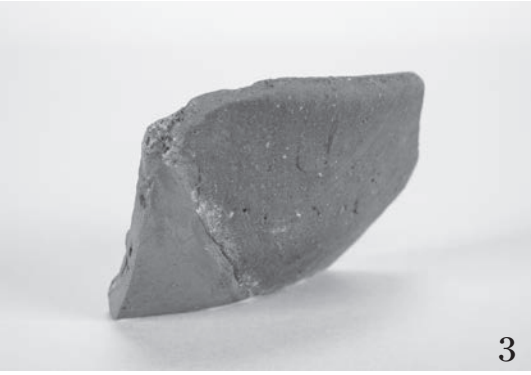
①SD 1(東から)

②SD 1(西から)

図版４

1

2


3

4

5

6

7

報　告　書　抄　録

ふりがな	こいたいやしきいせき９
書　　名	小板井屋敷遺跡９
副　書　名	福岡県小郡市小板井所在遺跡の調査報告
巻　　次	
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第348集
編著者名	山田　桃子
編集機関	小郡市教育委員会
所在位置	〒838-0198　福岡県小郡市小郡255-１　TEL 0942－72－2111
発行年月日	令和４年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（しょざいち）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
小板井屋敷遺跡９（こいたいやしきいせき）	福岡県（ふくおかけん）小郡市（おごおりし）小板井（こいたい）	40216		33°23’39”	130°33’25”	2020.11.4～2020.11.24	56㎡	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小板井屋敷遺跡９	集落跡	古代、中世、近世	掘立柱建物、竪穴住居	土師器	

要　　約	今回の調査では、掘立柱建物や竪穴住居、多数のピットを確認した。２次・５次・６次・８次調査で確認されているような屋敷地を区画する大溝などは確認されなかったが、これまで見つかっている弥生時代から古代、中・近世にかけての集落跡と同様の流れを汲んでいる。

小板井屋敷遺跡９

小郡市埋蔵文化財調査報告書第348集

令和４年３月31日

発　行　小郡市教育委員会

小郡市小郡255－１

出　版　アイフィールド有限会社

小郡市祇園２－７－２　シャトー深町２F